

失われつつある河北潟との共生

- 現在の河北潟 -

河北潟の恵みを受けてきた湖岸の人々の暮らし。その恵みのもとには潟の水とそこに棲む生物たちでした。今は、河北潟と人々の暮らしの接点が失われつつあります。

多様な水辺の消失

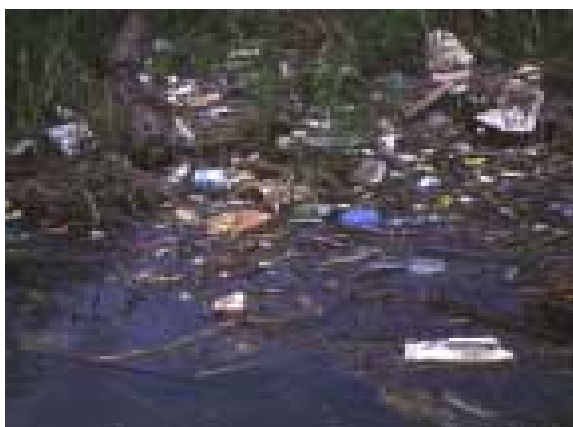
以前の河北潟には湖岸に幅広い沈水植物帯が広がり、周辺の水路にもオニバスなどのたくさんの水草が生育していたと考えられます。しかし、そのほとんどはきちんとした調査もされないままに消滅してしまいました。このことは干拓前に存在していた複雑な形状の湖岸や多様な水辺環境が次々と消失していったことと深い関係があります。

河北潟干拓に伴って河北潟の湖岸はほぼ100%人工化され、矢板による護岸やアスファルト護岸となっています。効率だけを求めた単調で直線的な護岸は、波が激しくぶつかるために水草が定着できず、現在の潟に残された植物帯は水面全体の5%の面積にしかなりません。河北潟に豊かな植生を再生するためには早急な対策が望まれます。



直線的な護岸堤

潟面積の減少と淡水化・水質の悪化



湖岸に溜まったゴミ

潟面積が1/3以下になったことから、潟への海水の流入が起こりにくくなりました。また、防潮水門を建設したことにより完全に潟内は淡水になりました。かつてのボラ、スズキなどの汽水性の魚は姿を消しました。同時に伝統的な潟漁もみられなくなりました。

潟の汚れでもあるプランクトンや浮遊有機物を濾過してくれるシジミやゴカイはほとんどいなくなりました。流域からの負荷の増加もあり、河北潟の富栄養化が一気に進行しました。

ゴミは一時期よりも少なくなっていますが、相変わらず河北潟での深刻な環境問題です。潟周辺から出るゴミとともに、農業廃棄物として出される大量のビニールゴミの処理も重大な問題です。

水質の悪化やゴミの増加、美しい湖岸風景の消失など、河北潟の環境が悪化したことによって、周辺の人々の暮らしの中での河北潟との接点が少なくなり、潟の自然への関心が失われつつあります。



ハス田の網に掛かったノスリの死骸

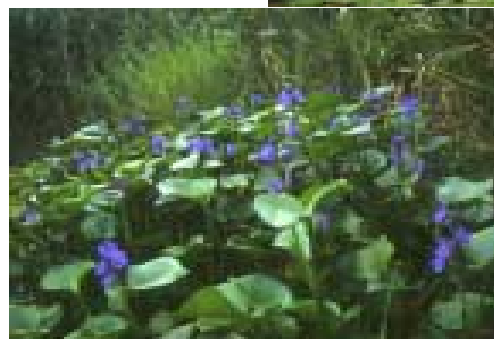
野生生物をむやみに排除することは、河北潟干拓地のもっている農地としての良好な質を低下させることにもつながりかねません。これからは農業が野生生物と折り合いをつけていくことを考える必要があるのではないのでしょうか。

最近の変化

干拓により出現したヨシを中心とする広大な草原は、チュウヒなどの草原性の野鳥の恰好のすみかでした。耕地化のために草原が減少し、入植が進むとともにこれらの種は窮屈に生活するようになりました。最近ではブラックバスをねらう釣り人が増え、繁殖場所のヨシ原の中にまで人が入り込むことにより、落ちついて繁殖できなくなってきています。

ブラックバス、ブルーギル、ウシガエル、アメリカザリガニ、セイタカアワダチソウなどの外来種は在来の生物を脅かし、河北潟を席巻しています。これらをすべて排除することはできませんが、これまでよりも多様な環境をつくることにより、様々な種が生き残れる工夫が求められます。幸いにもアサザ、コウホネ、ミクリ、ミズアオイなど、全国的に絶滅が心配される種が河北潟周辺の水路や湿地にかるうじて生存していることがわかりました。また、最近では水路の改修や圃場整備の際に、こうした希少生物を保全しようという動きも出てきました。かつての豊かな水辺の生き証人ともいえるこれらの種を絶滅させないために、多様な水辺の復活が求められます。

河北潟の貴重な植物
(アサザ・ミズアオイ)



繁茂するセイタカアワダチソウの群落

最近では、河北潟の環境問題に関心を持つ人が増えてきました。ゴミも以前のように簡単には捨てられなくなりました。干拓地を訪れる人も増えてきました。産直やブドウ狩り、アイスクリームスタンド、ひまわり畑など、干拓地農業にも少しずつ活性化の兆しが見えています。河北潟を美しくしようという運動も現れました。しかしながら、外来者の増加は、野生生物の保護を考えた場合には慎重に扱わなければならない問題です。河北潟の豊かな自然は観光資源としても有効です。潟の自然と野生生物を守りながら、干拓地の発展を考えていくことが求められています。